

## 今できることを少しずつ

横須賀市立市民病院 中村明日美

### ごあいさつ

はじめまして。横須賀市立市民病院に所属している中村明日美と申します。横須賀市は神奈川県南東部に位置し、三浦半島のなかほどを占める地域です。当院は二次救急指定病院であり、近隣の三浦市、逗子市、葉山町を含む西部地域の急性期医療を担っています。病床数482床、このうちに地域包括ケア病棟と回復期リハビリテーション病棟を含みます。また、クリティカル領域を担う病床として特定集中治療室を4床、ハイケアユニットを12床運営しています。

横須賀市は1990年代前半の人口総数約43万5千人をピークに年々人口が減少し、2022年時点では約37万8千人となりました。一方で高齢化率は上昇の一途を辿っており、65歳以上の高齢者が占める割合(高齢化率)は2022年度で32.2%でした。これは、日本全体の高齢化率29.1%を上回る数値です。核家族化が進んだ影響で、独居の高齢者も少なくありません。また、横須賀市は坂が多く、退院後に一人で住むには難しい立地の家に住んでいるという患者さまも見かけます。しかしながら、当院の周辺は漁師さんや農家さんがたくさん住んでおり、高齢とはいえまだまだ現役で働いている方も大勢いらっしゃいます。このように、さまざまな生活背景をお持ちの患者さまが安心して暮らせる医療体制を整えることが、当院の使命です。

### 特定ケア看護師への道のり

私は市内の看護専門学校を卒業し、市民病院に就職しました。当時は小児科病棟で勤務をしていましたが、ハイケアユニットの立ち上げに伴う院内異動を機に、クリティカル領域へ足を踏み入れることとなりました。

2015年に「特定行為に係る看護師の研修制度」が発足した頃から、特定行為の修得にはとても興味がありました。しかし、自分に勉強しきれるものなのか、金銭面、当院で働き続けるにあたって自分自身が力を発揮できるのか、でも修得したらきっと看護がもっと面白くなるし何よりも患者さまに大きな利益となるのではないかと、というさまざまな葛藤がありました。数年間悩み、当時の看護部長や看護師長に後押しをしていただき、2021年度に6期生としてNDC研修を開始することを決意しました。1年間の研修期間では、莫大な量のe-Learningをクリアし、慣れない環境での実習をなんとか乗り越え、やっとの思いで修了しました。その後の臨床研修は、診察から入院患者管理までを指導医と共にこなし、目まぐるしく1年間が過ぎました。

### 今の活動

臨床研修を終えた現在は特定集中治療室に所属し、一人の看護師として勤務しています。病棟に所属せず、組織横断的な活動や診療部の医師たちと行動することなど、自分なりに理想があるのですが、今はまだ実現できていません。組織

に所属していますから、理想と現実にギャップがあることは避けて通ることはできません。例えば、特定集中治療室専従の特定ケア看護師として病棟管理をするにしても、当院はオープンICUであり、医師を交えたカンファレンスを毎日欠かさず開催することも難しい状況です。また、私を頼って電話を掛けてくださる他病棟の看護師もたくさんいるのですが、今の私は集中治療室での業務があるため、100%すぐに駆けつけることも難しい状況です。

できないと嘆いていても現状は変わりません。各施設、さまざまな悩みがあるのだと思います。特に、特定ケア看護師というのは新しい職種ですから、まず現状でできることを最大限にやるしかない私は強く思います。今は、これまでの研修で学んだ知識を活かし、他の看護師と協力して、集中治療室に入室する患者さまへ医療が提供できるよう努めています。

例えば、侵襲的・非侵襲的陽圧換気を行っている患者さまの呼吸状態を観察し、医師の指示を待たずとも最適な設定条件へ変更したことで、患者さまの安全な呼吸と安楽を保つことができました。また、患者さまやご家族への病状や療養に関する質問も、医師の説明内容を元にしながら、より患者さまやご家族に分かりやすい言葉でお話することができました。さらに、集中治療室に入室する患者さまは、採血採取も一筋縄ではいかない全身状態でありながら、頻回にデータチェックが必要とされることも頻繁にあります。そのような時にも、何度も苦痛を与えずに採血を実施し、必要であれば動脈ラインを確保する、または確保の提案をするなど迅速に対応することができます。

いずれも医師との連携が課題ではありますが、少しずつできる範囲を広めることを目標としています。

## これからの展望

まずは、院内の全ての職員に対する“特定ケア看護師”の周知が最初の大きな一歩であると考えます。NDC 3期卒業生が、これまでは1人で院内の特定ケア看護師として活動していました。ですから、特定ケア看護師について全くもって初めてという状況ではありません。ただし、どのような場合に相談すべきなのか分からない、どのような活動体制なのかが明確でない、など、組織の一部として活動するには具体的でない部分も多くあることが分かりました。組織活動の具体化と活動規定の明確化は事務作業として進めるとして、院内職員への周知活動は今すぐにもできることです。

今年度からは私以外にも、NDC 7期生が臨床研修を開始したほか、皮膚・排泄ケア認定看護師が創傷管理関連の特定行為を修了し専従活動を再開しました。また、診療看護師1名が、臨床での活動を開始しています。4人それぞれがさまざまな立場でスタートダッシュを切ったばかりで、大変な状況ではあるのですが、チームとして活動できるよう協力し合うこととなりました。いずれはもっと特定行為に係る看護師が増え、患者さまも医療者も満足できる医療体制が整えられることを願っています。

## 終わりに

研修に送り出してくださった病院管理者と看護部長はじめ同僚の皆さま、研修中にお世話になった各施設の職員の皆さまへ、深く御礼申し上げます。